

電力・エネルギー部門(B) の活動状況の紹介



令和8年9月17日 電力・エネルギー部門大会（千葉大学）

令和8/9年度 電力・エネルギー部門長 中島 達人
(東京都市大学)

B部門活性化に向けた課題と取り組み

2

1. 取り組むべき課題

- 専門領域・活動領域の拡大、他部門・他学会との連携強化
- 学生・若手会員の育成、女性会員の活動の促進
- 共通英文論文誌（TEEE* B）の質・量の向上
- 和文論文誌の強化、和文論文翻訳誌（EEJ**）活用による国外への情報発信
- SNS、WEBを活用した社会への情報発信・訴求力（広報力）の増強
- 部門会員の増加策、部門財政基盤の強化、等の検討

* TEEE: Transactions on Electrical and Electronic Engineering (電気学会共通英文論文誌)

** EEJ: Electrical Engineering in Japan (電気学会和文論文翻訳誌)

2. 取り組み状況

- B部門が描く社会の姿『**ビジョン2030 ビヨンド**』の具現化
 - 他部門・他学会・異分野・異業種との融合による活動領域の拡大とイノベーションの創出を目的に、令和4年度に策定した『**ビジョン2030ビヨンド**』の具現化に向けた活動の展開
- 多面的な活性化方策の展開
 - 他分野・他学会との連携、学生・若手・中堅・女性への訴求、論文力向上、研究調査分野の拡大、広報力の強化、キャリアアップ支援等の諸活動をきめ細やかに実施中

ビジョン2030 ビヨンド 『「2050年カーボンニュートラル」達成に向けて』

3



B部門が描く 新たな電力インフラ の役割

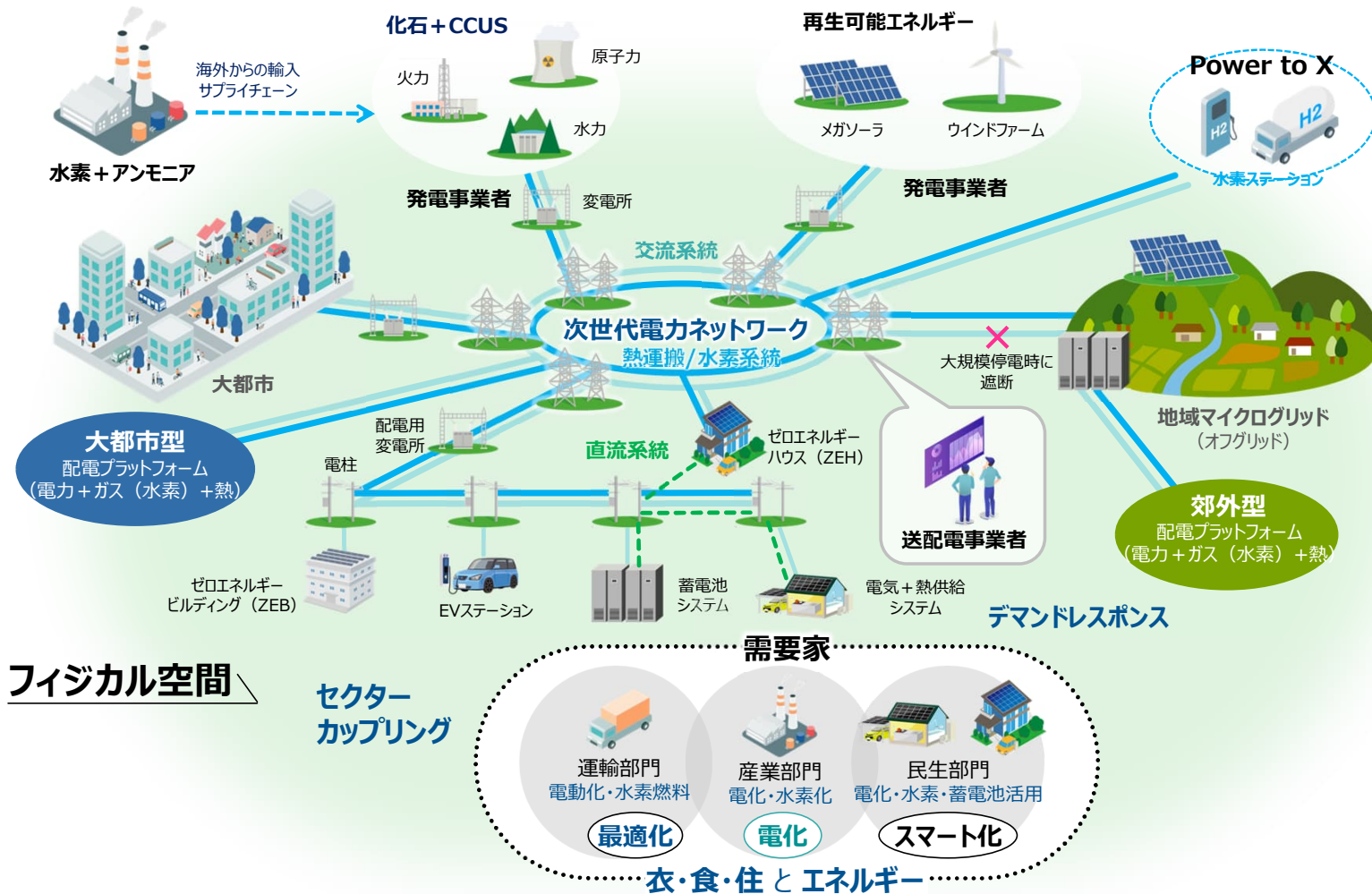
- ・低廉かつ低炭素で**安定な電気の供給**
- ・異分野・異業種とのコラボでの**プラットフォーム**としてエネルギーインフラの下支え
- ・**新たな産業の創出**（電化、クリーンエネルギーへの投資、EVインフラ、系統の高度化）
- ・自然環境への貢献（クリーンエネルギー、水素）
- ・科学技術を担う多様な**人材の創出・育成**と活用促進および**技術継承**

挑戦

チャレンジャーとしての
電力・エネルギー部門

ビジョン2030ビヨンド 「B部門が描く社会の姿 ～フィジカル空間～」

4



まとめてみると：

- エネルギー供給の多重化・多様化
- 都市部でのエネルギー供給の輻輳化
- 郊外部でのエネルギー供給の分散化

キーワード：

- プラットフォーム
- セクターカップリング
- デマンドレスポンス

ビジョン2030ビヨンド「B部門が描く社会の姿 ～サイバー空間～」

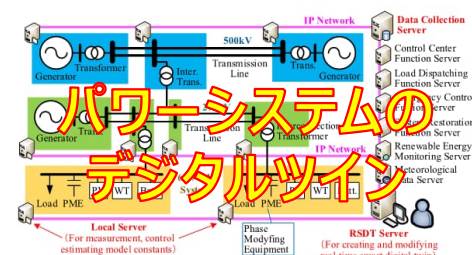
5



例えば



<https://www.mri.co.jp/knowledge/insight/20250313.html>



<https://www.e-cigre.org/publications/detail/c4-10529-2022-new-concept-of-next-generation-power-system-reliability-control-system-based-on-rsdt-real-time-smart-digital-twin.html#:~:text=Share,smart%2Ddigital%2Dtwin.html>



<https://criepi.denken.or.jp/koho/topics/201610vol22.pdf>

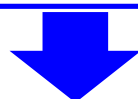
『ビジョン2030 ビヨンド』の具現化に向けたR8年度の取組み

6

体制	ビジョン作業会 (⇒「ビジョン推進WG」)	研究調査運営委員会	技術委員会
役割	<ビジョン作成> - 技術委員会のロードマップ集約 - 新たな技術テーマをビジョンへ反映	<意見だし> - コラボ可能案件の抽出 - コラボ案件成立支援	<ネタ提供> - ロードマップ作成 - 新たな技術テーマ案 - コラボ企画調整・実施

R7年度実施事項

- ・R7年B部門大会でオーガナイズドセッション、パネルディスカッション開催
- ・技術委員会によるロードマップの作成
- ・技術委員会間の共通の技術課題整理



B部門が創る未来のビジョンを明確化

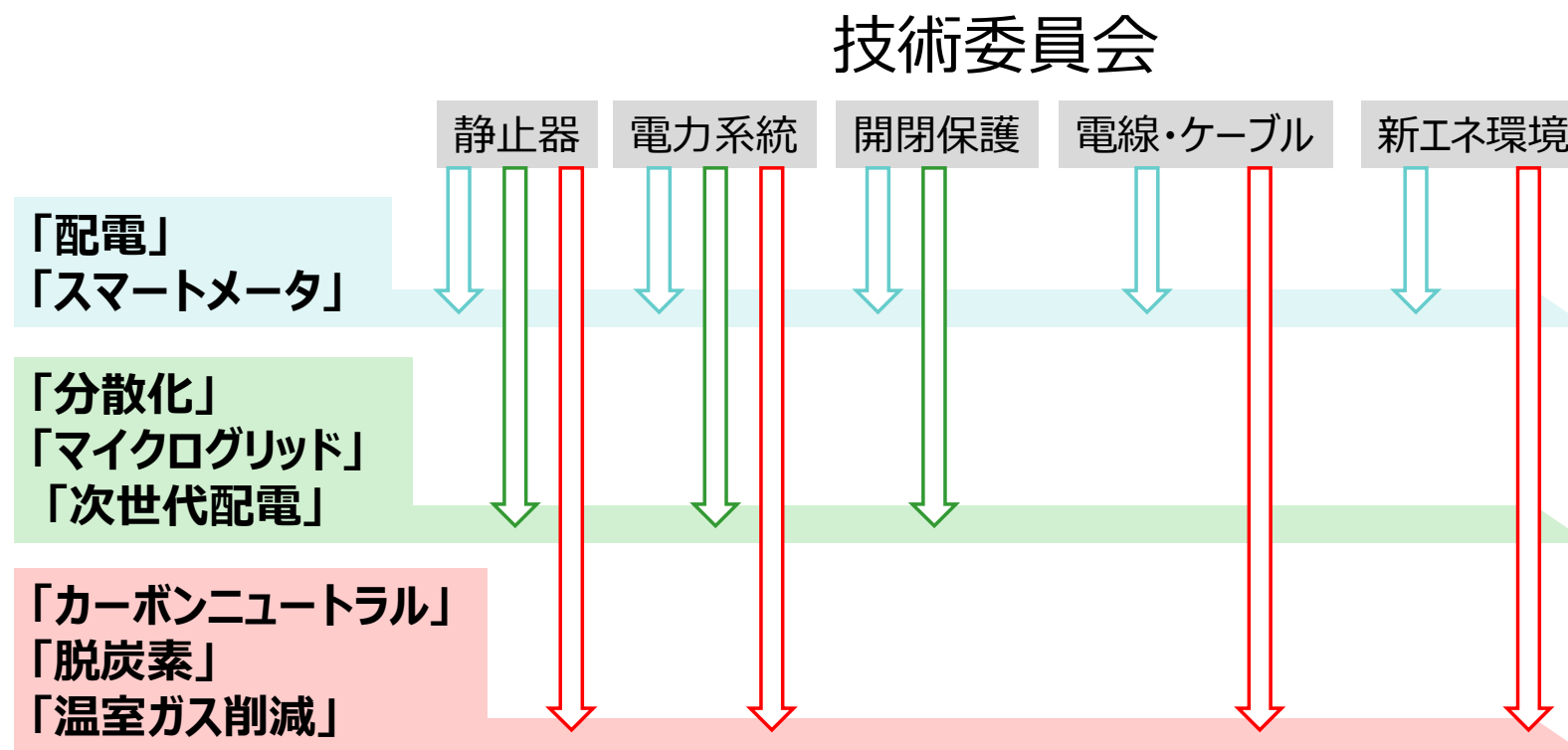
R8年度以降に実施予定

- ✓ R8年部門大会でのオーガナイズドセッション、特別企画
- ✓ 合同調査専門委員会の設立検討
- ✓ 部門間連携活動の推進

技術委員会ロードマップからの活動の展開（技術委員会間の協業/協創の実現）

7

ロードマップ内のキーワード例



共通するキーワードを基に技術委員会間のコラボレーションを実現

- 外部とのコラボレーション（協業）による協創も視野に活動を推進

B部門の活性化に向けた取り組み状況（1/5）

8

分類	状況	内容
ビジョン	実施中	B部門が描く社会の姿「ビジョン2030 ビヨンド」の具現化に向けた施策の実施 ⇒傘下の各委員会（編修、研究調査運営、広報・国際化、SNS・プロモーション）で具体的施策を展開 ⇒各技術委員会でR&Dのため計画作成とローリングの実施
連携	実施中	国際会議：活動活性化に向け国際委員会を設置 ⇒タイ合同シンポジウムの開催 ⇒IEEE PES→ MOU締結に向け継続協議中 ⇒CIGREとの連携も視野に活動を展開
	実施中	他部門との連携：部門大会・全国大会でのコラボイベントを適宜計画
広報	実施中	B部門HPで「用語解説」、「WEBセミナー（動画解説）」を公開中 メルマガ、SNS等による会員の皆様への情報配信の実施
	検討中	ニュースレターの電子化

B部門の活性化に向けた取り組み状況（2/5）

9

分類	状況	内容
論文/研究会 資料	実施中	共通英文論文誌 特集号の活用によるB部門のプレゼンス向上 和文優秀論文の英語化による情報発信の支援
	実施中	B部門「論文査読促進賞」の試行中
	実施中	部門大会・研究会資料のインターネット・モバイル配信化 ⇒印刷物、CD-ROM版の廃止 ⇒部門大会論文集、研究会資料の完全電子化 ⇒購入は、電気学会図書館（ https://ieej.bookpark.ne.jp/ ）で
	今後検討	部門論文賞、部門若手優秀論文賞、部門若手論文奨励賞、英語論文賞の創設 による論文の活性化
	アイデア	動画論文、動画プレゼン など インターネット・モバイル環境を最大活用した研究成果 の効果的発信策の検討
技術報告 /JEC/各種 出版物	実施中	2025年10月1日以降、技術報告、JEC、各種出版物の購入については、 pdfは電気学会図書館（ https://ieej.bookpark.ne.jp/ ）で実施中 冊子はそれぞれの販売元で実施中

B部門の活性化に向けた取り組み状況（3/5）

10

分類	状況	内容
生徒/学生	実施中	高校生による研究発表会「高校生みらい創造コンテスト」の実施
	実施中	U-21 学生研究発表会の開催支援（令和4年度から本部活動へ移管）
	実施中	高校・高専やSSHの指導をいただいている理科・工業科教員への学会誌配布と教員の入会支援のための戦略的事業の実施
	実施中	学生ランチ活動の支援：昨年に引き続き5件の学生ランチが活動を継続 ⇒B部門大会では学生ランチ・YPC発表者交流会を実施 ⇒R7大会では学生ランチ代表が大会中日のパネルセッションに登壇
	実施中	R7年度より、部門大会で英語による論文の作成・発表・質疑応答を経験していただく「English Paper session for Student」を開設。
若手	実施中	部門大会でのYPC/YOC/OSP表彰の実施 YPC : Young engineer Poster Competition YOC : Young engineer Oral presentation Competition OSP : Outstanding Student Presentation Award
	実施中	学生向け見学会（エネルギーワンダーランド）や技術フォーラム（技術委員会と連携）の開催
	今後検討	新社会人向けの技術解説SNSの創刊

B部門の活性化に向けた取り組み状況（4/5）

11

分類	状況	内容
中堅	実施中	令和3年度に部門「特別貢献賞」の創設 ⇒学会に貢献した社会人をより積極的に表彰
	実施中	フェロー推薦基準見直しを行い、制度を運用中
	アイデア	40歳以上向けの異業種交流会の開催 異業種の動向が見える記事や雑誌の創刊
キャリアアップ	今後検討	各会員の履歴書ページの製作、学生による研究紹介コーナー、留学体験談の紹介コーナー
その他	実施中	レクチャー(動画)を部門Webで公開 ⇒『学生員 & 若手技術者セミナー』、『用語解説セミナー』を部門会員を対象にオンデマンド配信
	適宜開催	社会的に大きなイベント（大災害含む）があった時の特別講習会 ⇒持続可能で災害に強い社会をテーマにしたセッションの開催など
	アイデア	部門大会ポスターの背景に企業広告の配置（新しい広告募集方式） ⇒広告収入源の多様化による部門財政の健全化の実現

B部門役員会では、活動の活性化に向けた
皆様の**アイデアを募集中**です。

是非、下記のアドレスまで皆様の声をお送り下さい。



pes-sp@ieej.org

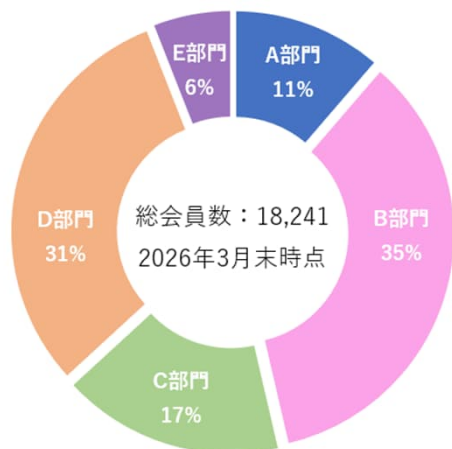
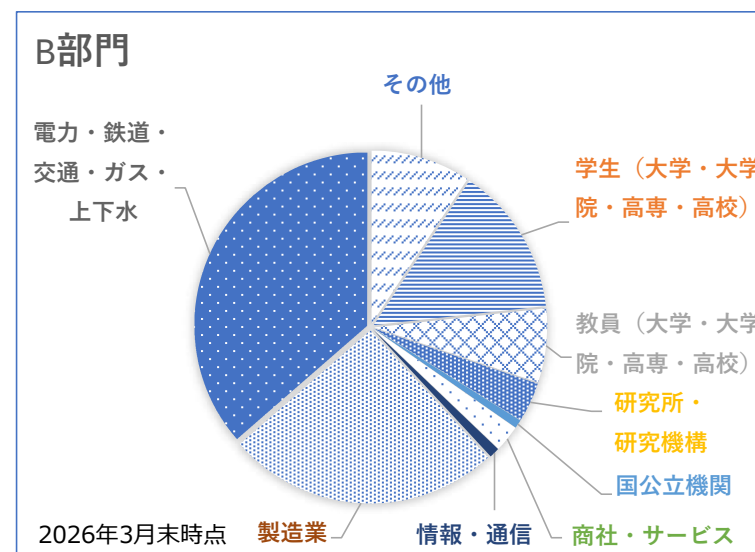
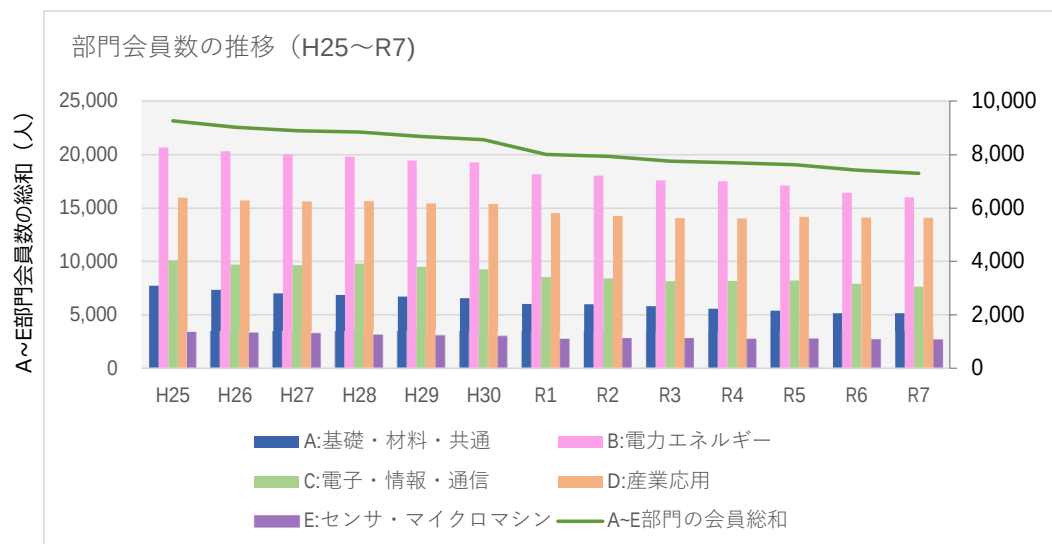


令和8年度の主な活動状況報告

13

1. 会員数の状況
2. 共通英文論文誌
3. 和文論文誌
4. 研究調査活動
5. 講習会・シンポジウム・フォーラム・研究会等の開催
6. 高校生みらい創造コンテスト
7. エネルギーワンダーランド
8. 学生ランチ
9. YPC とYOC
10. 学生ランチ・YPC発表者交流会
11. 日・タイ合同シンポジウム
12. ホームページ掲載コンテンツの充実
13. U-21 学生研究発表会

1. 会員数の状況



- B部門は、電気学会最大の会員数を抱える部門 (3月末6,397名)
 - **長期的にみると会員数が斬減傾向**
 - **部門の予算は6,000万円程度⇒財政基盤の強化が課題**
- B部門会員は、アカデミア、製造業、公益企業の出身者でバランス良く構成
 - **理論から実践、研究成果の社会実装まで幅広い議論が可能**

2. 共通英文論文誌

15

● インパクトファクタ (IF)

- **2024年 IF=1.1を獲得** (※) (**2025年 IF=1.0**)
- 2016年から内外の著名者による「招待解説論文」を掲載し、IF向上に寄与

(※) 2021年までは小数点3位までの表記であったが、2022年より小数点1位までの表記となった。

● 査読の体制

- B部門論文委員会で担当
(B1:237名、B2:157名, 2026/07/23時点)
←ご協力ありがとうございます。

● 査読期間 (投稿者による再提出までの期間も含む)

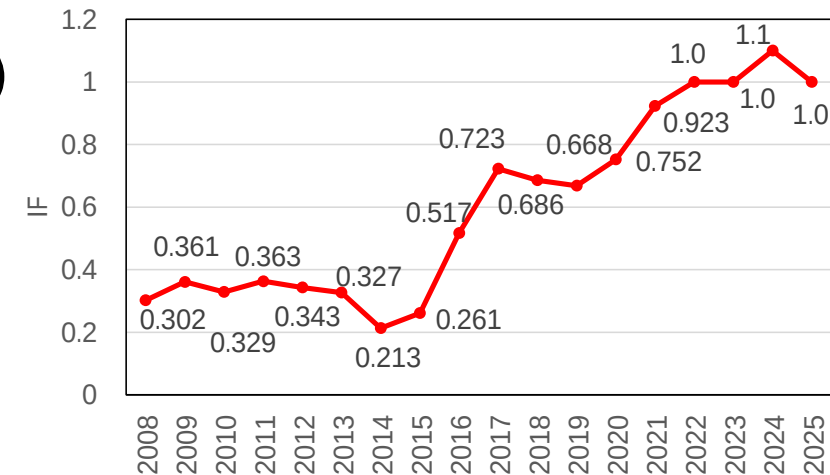
- 査読期間：4.99月 (152日) (昨年比：0.06月の減) なお、2016～2021の平均査読期間：5.94月)

● 実績 (共通英文論文誌)

投稿数 (2025年)：論文 207件、レター 3件

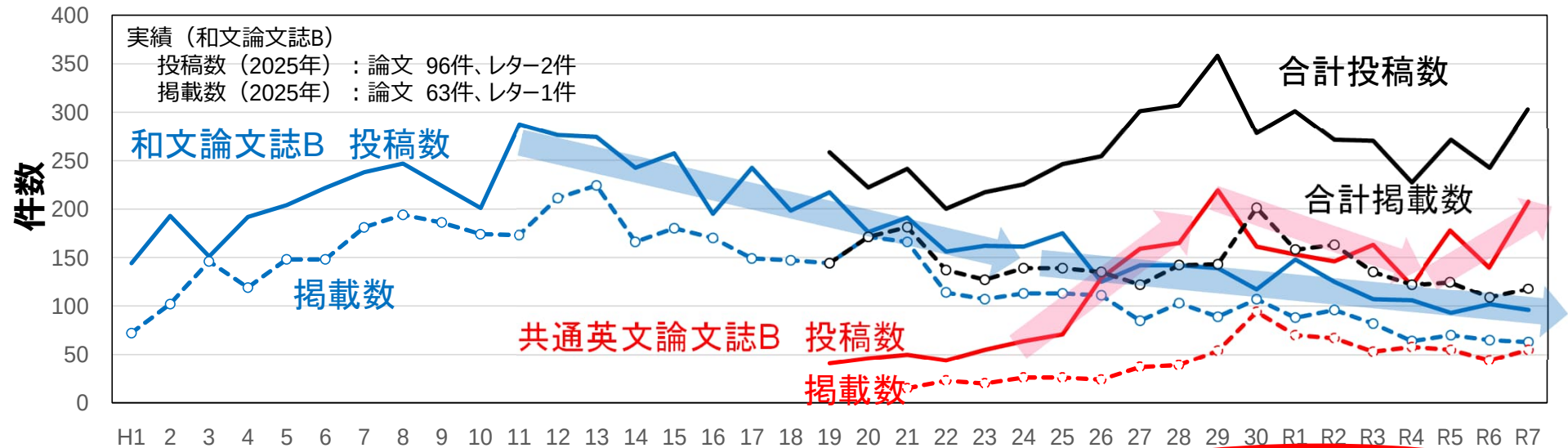
掲載数 (2025年)：論文 55件、レター 1件

- 「令和6年 電力・エネルギー部門研究会における優秀論文発表賞と技術委員会表彰」特集号 (2026年6月号)



3. 和文論文誌

16



近年の論文誌の状況（実線：投稿数、破線○：掲載数）

和文論文誌B（IEEJ B）

H10年をピークに和文論文誌への投稿は半減

⇒和文論文誌の存続の危機！

共通英文論文誌B（TEEE B）

和文論文誌から共通英文論文誌への投稿行動変容による増加

⇒H26年以降、投稿件数はB部門和文論文誌を逆転！

掲載された和文論文の約1/3は
 翻訳されEEJ(IF=0.6)を通じて国外に発信

EEJ: Electrical Engineering in Japan

皆様の和文論文誌Bへの
 投稿をお待ちしています！

4. 研究調査活動

17

分類	技術委員会	スコープ＝研究会テーマ	調査専門委員会（2026年6月現在）	延べエキスパート数
B2	静止器技術委員会	1. 変圧器、2. コンデンサ、3. 静止誘導器一般、4. 有限要素法による電力機器の電磁界解析法、5. 電力用電力変換、電力用無効電力補償装置	1. 持続可能な社会実現に向け変圧器に求められる機能・仕様の最新技術動向調査専門委員会 2. 大電流エネルギーシステムの適用拡大と環境保全に関する技術動向調査専門委員会 3. 電力用交直変換器と直流用コンデンサの適用拡大に関する最新技術動向 4. イノベーション創出を目指した先駆的電磁界解析技術	96
B2	開閉保護技術委員会	1. 遮断器、2. 断路器、3. 負荷開閉器、4. 避雷器、5. ヒューズ、6. 閉鎖形開閉装置、7. ガス絶縁開閉装置、8. 開閉保護システム、9. その他関連事項	1. 高電圧開閉装置関連規格の国際標準化における課題と対策案調査専門委員会 2. 中電圧スイッチギヤの対応規格と技術動向調査専門委員会	49
B1&B2	新エネルギー・環境技術委員会	1. 再生可能エネルギー利用技術（太陽エネルギー、風力エネルギー、水力エネルギー、海洋エネルギーなど）、2. エネルギー変換・貯蔵・利用技術（MHD発電、燃料電池、水素エネルギー、熱電変換、蓄電池、電気自動車など）、3. 省エネルギー技術、未利用エネルギー利用技術（廃熱利用発電、ごみ発電、熱供給、熱輸送、超電導送電など）、4. 環境保全技術（有害物質除去・無害化、温室効果ガス削減、炭酸ガス分離・固定など）、5. エネルギー技術評価（LCA評価、エネルギーシステム解析など）	1. 電力系統における電気自動車の影響・効果調査専門委員会 2. 電磁界応答流体の先進融合技術に関する調査専門委員会 3. 分散型エネルギー資源の電力系統運用への有効活用に関する調査専門委員会	60
B2	原子力技術委員会	1. 原子力発電所計測制御、2. 放射線計測、3. 核融合、4. 原子力発電所用電線ケーブル、5. その他原子力・放射線技術に関するもの	1. 原子力の運転・保全に貢献するDX技術動向調査専門委員会18 2. 挑戦的核融合炉技術調査専門委員会20	52
B2	電線・ケーブル技術委員会	1. 架空送電電線、2. 電力ケーブル、3. 通信ケーブル、4. 特殊ケーブルを含む再エネ等、5. その他関連事項（システム、付属品、工事、診断、保守など）	1. 海底送電ケーブルの最近の技術動向調査専門委員会	34
B1&B2	電力技術委員会	1. 電気事業、2. 電力系統、3. 発電（電力用回転機を含む）、4. 変電、5. 送電、6. 配電、7. 需要設備、8. その他関連事項	1. 自励交直変換器と電力系統の相互作用調査専門委員会 2. 分散型エネルギー資源の電力系統運用への有効活用に関する調査専門委員会	77
B2	高電圧技術委員	1. 高電圧の発生、測定、2. 高電圧試験、3. 高電圧電界計算、4. 絶縁設計と気体、液体、固体の高電圧現象、5. 汚損高電圧現象、6. 雷現象、7. 過電圧と絶縁協調、8. 高電圧応用、9. 高電圧と環境	1. 稼働率維持を考慮した風車の雷害対策調査専門委員会 2. 雷リスク評価に基づく配電線耐雷設計手法調査専門委員会	91
B2	超電導機器技術委員会	1. 超電導マグネット技術、2. 極低温技術、3. 交流超電導技術、4. 超電導導体技術、5. 解析技術、6. 応用技術、7. 冷却技術、8. その他の関連技術	1. 磁気力を活用した脱炭素・環境再生技術と超電導応用調査専門委員会	27
B1	保護リレーシステム技術委員会	1. 送電系統の保護、2. 送変電設備の保護、3. 配電系統および自家用受変電設備の保護、4. 系統事故波および防止保護、5. 分散電源連携系統の保護、6. 保護リレーシステム技術と密接に関連したローカル制御（自動復旧、AVQC等）	1. 系統保護リレーシステムの信頼度の現状と今後の方向性調査専門委員会	44
B1	電力系統技術委員会	1. 系統計画、需給計画、電源計画、エネルギーミックス、アセットマネジメント、2. 需給運用、系統運用、制御システム（周波数制御、電圧制御、安定化システム、監視制御システム等）、3. スマートグリッド、需要側管理（需要側エネルギーマネジメント、デマンドレスポンス等）、4. 分散電源（再生可能エネルギー、蓄電システム等）、5. 系統解析、シミュレーション、予測技術、6. 電気事業制度、電気事業経営、環境評価（電力小売自由化、供給信頼度、電力ビジネスモデル、地球温暖化等）、7. 情報処理、情報通信、サイバーセキュリティ、8. その他関連する技術	1. 系統運用者教育・訓練体系調査専門委員会	41

延べ571名のエキスパートのご協力の下、活動が推進されています。深く感謝いたします。

注：延べエキスパート数：技術委員会と調査専門委員会の参加者の総和

5. 講習会・シンポジウム・フォーラム・研究会等の開催（1/2）

18

✓ 令和7年度技術委員会が主催した会合（一部抜粋）

技術委員会	会合名（講習会・シンポジウム・フォーラム等）
静止器	「日本のライフラインを支える電力設備」（シンポジウム） 「持続可能社会実現に向けた高効率大電流エネルギーシステム技術」（講習会）
開閉保護	「高電圧遮断器へのセンシング技術の適用とその応用」（フォーラム） 「架空線路用避雷器・避雷装置の適用に関する技術動向」（フォーラム）
新エネルギー・環境	－
原子力	「原子力技術の現状」（シンポジウム）
電線・ケーブル	「最新技術による架空送電線の保守・保安の高度化」（講習会） 「海底送電用ケーブルの最近の技術動向」（フォーラム）
電力	「スマート電力メーター活用の動向と展望に関する調査」（講習会）
高電圧	「高圧配電線耐雷設計の技術変遷と合理化に向けた今後の課題」（フォーラム） 「高圧配電線の雷リスクマネジメント手法構築に向けた課題」（フォーラム）
超電導機器	「The International Forum of Magnetic Force Control」（国際フォーラム） 「第24回 磁気力制御・磁場応用 夏の学校」（講習会）
保護リレーシステム	「日本の保護リレーシステム技術のあゆみと国内外の技術動向」（専門講習会） 「デジタル変電所の監視制御・保護リレーシステム」（フォーラム）
電力系統	「環境変化をふまえた系統運用者教育・訓練体系の現状」（座談会）

5. 講習会・シンポジウム・フォーラム・研究会等の開催（2/2）

19

【令和7年度の主な会合実績】（合計で**177**件）

技術委員会名	技術委員会	調査専門委員会	研究会	講習会	シンポジウム	フォーラム	座談会	その他	合計
静止器	4	18	4	1	1	0	0	1	29
開閉保護	4	10	2	0	1	2	0	0	19
新エネルギー・環境	4	9	3	0	0	0	0	0	16
原子力	5	4	0	0	1	0	0	2	12
電線・ケーブル	4	0	3	1	2	1	0	1	12
電力	4	8	3	1	0	0	0	0	16
高電圧	4	12	4	0	0	1	0	0	21
超電導機器	4	3	2	0	2	0	0	2	13
保護リレーシステム	4	4	2	5	0	1	0	4	20
電力系統	4	10	4	0	0	0	1	0	19
合計	41	78	27	8	7	5	1	10	177

6. 高校生みらい創造コンテスト（令和7年度）（1/3）

20

● 令和7年度も従来の募集要項を踏襲

- 電気・エネルギーおよび環境を対象とした実験，測定，計算，設計などを自らの発想で行った報告や高校生らしいユニークな発想による研究・調査に期待
- 教員主導による授業の課題や夏休みの宿題としての活用などは対象外

● 応募論文29編（令和6年度23編）

- 厳正な審査の結果、
最優秀賞1編
優秀賞1編
佳作賞6編
を選出した。

参考：https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejpes/146/3/146_NL3_2/_article/-char/ja



（高校生みらい創造コンテスト ポスター）

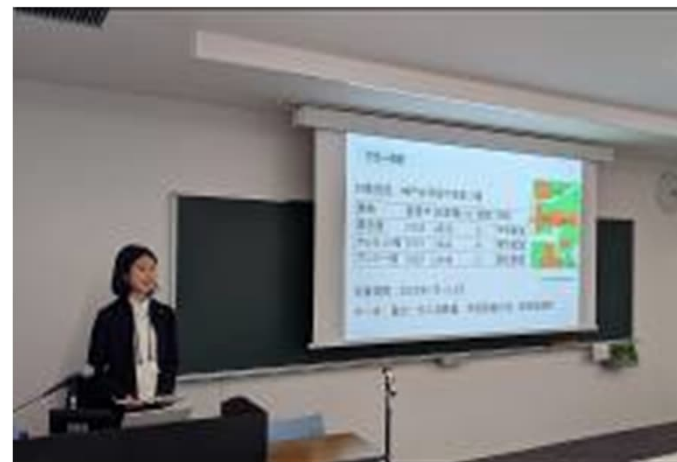
6. 高校生みらい創造コンテスト（令和7年度）（2/3）

21

表彰論文	タイトル および 研究者
最優秀賞 (1件)	「ネオジム磁石の温度変化 —減磁の家庭内再現とその応用—」 鈴鹿工業高等専門学校 山口 雄大 様 (https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejpes/146/3/146_NL3_3/_article/-char/ja)
優秀賞 (1件)	「学校施設におけるエネルギー消費の現状分析と省エネ対策の効果検証」 神戸女学院高等学部 門脇さつき 様 (https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejpes/146/3/146_NL3_7/_article/-char/ja)



表彰式集合写真



優秀賞発表の様子

6. 高校生みらい創造コンテスト（令和7年度）（3/3）

22

表彰論文	タイトル および 研究者
佳作賞 (6件)	「振動による流動層選別」 兵庫県立加古川東高等学校 櫻井 輝一 様
	「バドミントンの審判人員コスト削減」 東京都立多摩科学技術高等学校 戸谷 結真 様
	「農業におけるごみの野外焼却による周辺住環境への被害を軽減するシステムの開発」 東京都立多摩科学技術高等学校 柴田 直弥 様
	「身近な材料を用いた固体電池プロトタイプ of 構築と性能評価」 広尾学園高等学校 成田 響生 様
	「佐賀県佐賀市平野部における発電用垂直軸型風車の設計」 佐賀県立致遠館高等学校 宮崎 晴陽 様
	「東京での災害時における屋根設置型太陽光発電の実用性評価」 東京都立科学技術高等学校 浜田 賢一 様



表彰状・盾 授与の様子

7. エネルギーワンダーランド (1/2)

23

1. エネルギーワンダーランドとは？

これから進路を考える学生が電力・エネルギー分野に関心を持ってもらえる機会として高校生を対象に（高専生・大学生も可）、話題性に富む設備見学と分かりやすい解説講義からなる企画です。

2. 第29回目（令和7年度）の開催実績

- 開催日時： 令和8年(2026年) 3月24日 (火) 13:00 ～ 16:30
- 実施内容：
 - ・沖縄電力株式会社 牧港火力発電所 紹介・見学、DX推進事務局長 仲間博文氏による「電力分野のDX」講演
 - ・琉球大学 工学部工学科 電気システム工学コース 上原明恵先生による解説講義
- 参加者： 高校生2名、大学生12名、大学教員2名、電気学会関係者5名 合計21名

令和7年度の
見学および
講義の様子



牧港火力発電所見学
(タービンローター前で撮影)



講演の様子

7. エネルギーワンダーランド (2/2)

24

3. 参加者からの声

- ・なかなか見られない発電所の実態を見ることができて楽しめた。
- ・電力システムとエネルギーの仕組みを実際の設備を見学しながら学ぶことができ、とても良い体験だった。等、毎年好評いただいています。



令和8年度についても、B部門大会の開催予定地である千葉、または東京地域を中心として、引き続き開催を検討して行く予定です。

【基本コンセプト】

- ・過去のアンケートで要望が多かった「発電所（ダム・水力、火力、太陽光、風力）」、「地下変電所」等から見学可能な施設を選定する。
- ・高校生が通常見る機会のない設備や事象に関連する解説を中心とした講義を計画する。
- ・学校訪問や各種イベントにおけるP Rを中心に、引き続き学生の積極的な参加を働きかける。

8. 学生ランチ (1/2)

25

1. 学生ランチとは？

- 学会全体の活性化および魅力向上を目的として
学生が主体的に活動できる枠組み
(交流会、講演会、見学会等)

2. 参加校

令和8年は計5ランチ、約100名が参加予定

- 広島大学電力・エネルギー部門学生ランチ
- 電力システム技術東京私学連合ランチ
- 名古屋工業大学電力システム研究室
- 電気学会琉球大学Student Brunch
- 60Hzランチーズ

(参考) 令和7年実績：計5ランチ、107名が参加

学生ランチの活動例



学生主体で運営する講習会の開催



合同卒研中間発表会

8. 学生ブランチ (2/2)

26

3. 学生ブランチ・若手エンジニア懇談会

- B部門大会にて、学生ブランチとYPC発表者を対象とした交流会を実施
- 他校の学生との交流、各ブランチの活動内容等の意見交換
⇒コミュニケーション能力の向上、学会の活性化、人脈形成の一助

4. メリット&ブランチ設立方法

- 学生員は論文ダウンロード無料です！
- ブランチを設立すると活動の幅が広がります！
活動費の補助あり！
- 申込方法は、下記URLまで
➤ <https://www.iee.jp/pes/student/branch/>

学生ブランチ・若手エンジニア懇談会の様子



9. YPC と YOC (1/2)

(Young engineer Poster Competition)

(Young engineer Oral presentation Competition)

27

● 目的

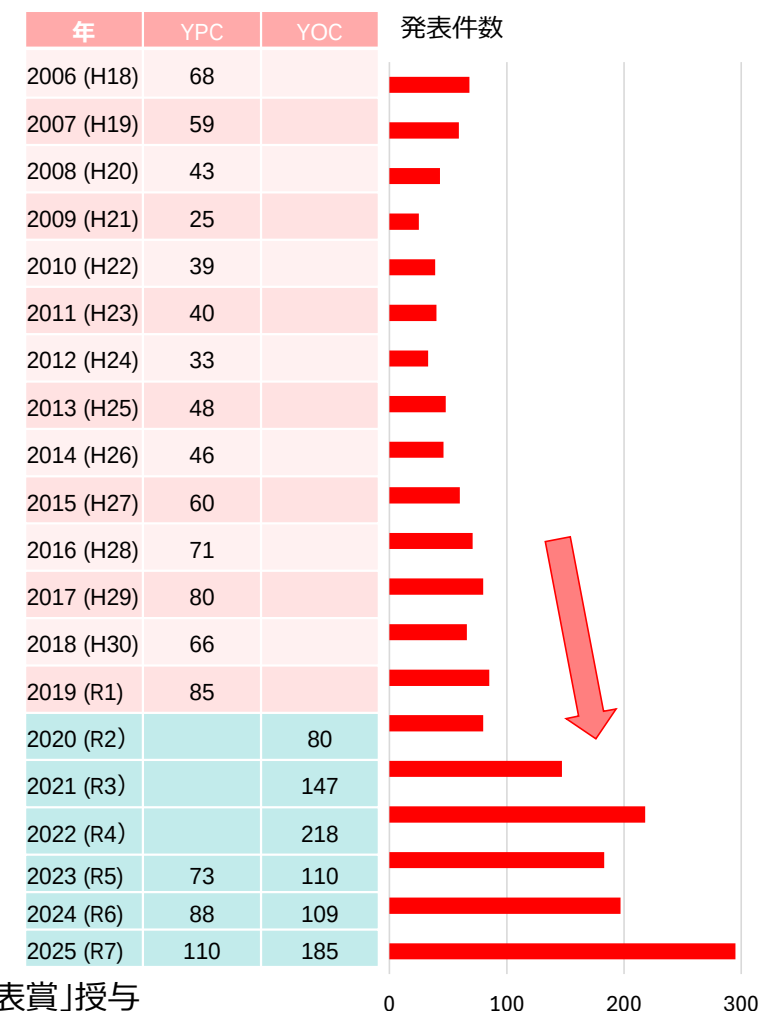
- YPCでは、学生や若手研究者に、対面にて**じっくりと議論**できる場を提供
- YOCでは、優れた口頭発表を行った**29歳以下の研究者を表彰し、モチベーションの維持・向上**

● 経緯

- 2005(H17)大阪大会
 - 第1回YPC (実行委・企画) YPC優秀発表賞の創設
- 2008(H20)広島大会
 - 論文II(ポスター発表)として衣替え
- 2011(H23)福井大会
 - YPC奨励賞の新設
- 2018(H30)徳島大会
 - 論文IでもYPCへの参加を可とする
- 2020(R2)・21(R3)オンライン開催
 - YPC中止の代替としてYOC実施
- 2022(R4)福井大会 (ハイブリッド開催)
 - YPCは引き続き中止し、YOC実施
- 2023(R5)愛知大会
 - YPCを再開、YOCは引き続き実施

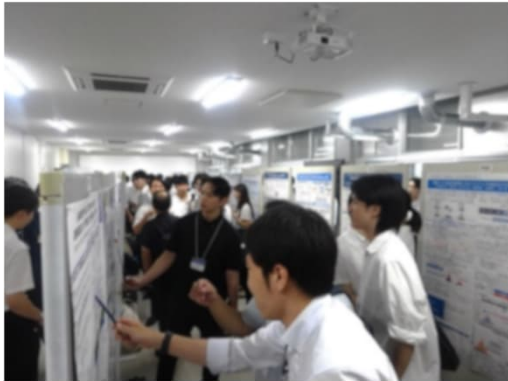
● YPCの概要

- 初日のお昼時に発表会開催、当日のうちに集計
- 午後の学生ランチ・YPC発表者懇談会にて「YPC奨励賞」授与。翌日懇親会にて「YPC優秀発表賞」授与



9. YPC と YOC (2/2)

28



ポスターセッション



学生ブランチ・YPC発表者交流会

● 近年、ポスター発表数が増加傾向

- 学生、若手研究者にとって、良い議論の機会であることが浸透しつつある。
- **2026（令和8）年大会もYOC・YPCを継続実施。**
- **前回大会（令和7年）から開始したEPSS（English Paper Session for Students）も引き続き開催。**
- YPC優秀発表賞/奨励賞、YOC優秀発表賞/奨励賞は、OSP賞(Outstanding Student Presentation, EPSSセッション)は学生・若手研究者にとって学会参加のモチベーションの1つ。
- 若手研究者の交流の場として、大会の初日に「学生ブランチ・YPC 発表者交流会」と「YPC 奨励賞表彰式」を合同開催。

10. 学生ランチ・YPC発表者交流会

29

令和7年 電気学会 B部門大会 2025年9月17日（水）14時～17時
テーマ 『ビジョン2030ビヨンド実現に向けた課題と実現方法について』

<参加者> 62名

学生ランチ 47名

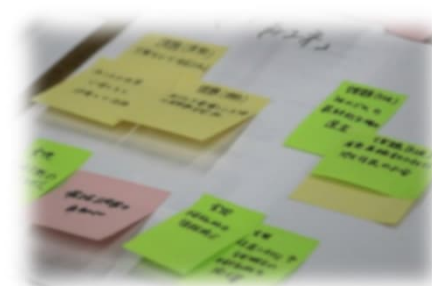
YPC表彰者 15名

<プログラム>

- 研究調査運営委員会 委員長挨拶
- 学生ランチ活動のご紹介
- 交流会・ミニディスカッション
- 全体講評（続いてYPC奨励賞表彰式）



グループディスカッション



集合写真

9月18日（木）16:00～18:00
特別企画のパネル討論に学生ランチ
代表者も参加

11. 日・タイ 合同シンポジウム (1回/年開催)

30

- ◇2011年度からタイ国内でIEEE PESタイ支部と共同で実施
- ◇2020、21年度はオンライン形式で開催
- ◇2022年度以降はハイブリッド（現地＋オンライン）形式で開催

- 2025年度は2026年3月6日に開催
- 投稿論文数は日本から8件、タイから5件の計13件
- 約40名の参加者(現地24名)があり、盛況
- 共通英文論文誌に特集号を企画

～オープニングアドレスの様子～



IEEE PES Thailand: Dr. Nopbhorn
電気学会B部門:高尾前副部門長（当時）



～会場の様子～

～集合写真～



12. ホームページ掲載コンテンツの充実

31

●「用語解説」をホームページに毎月追加しています

- － 現時点で184テーマについて解説。
 - ・ アクセスが多いテーマ例：
「無効電力補償装置 (STATCOM)」、
「ガバナフリー制御」など



用語解説



学生員 & 若手技術者セミナー

●「Webセミナー」で動画を会員限定でオンデマンド配信

- － 「学生員&若手技術者向けセミナー」
- － 「用語解説セミナー」
- － 動画を視聴するパスワードはメルマガで配信



用語解説セミナー

● X、Facebookにてイベントや新刊情報、ニュースレター等の更新状況をアップしています！

- － “フォロー”と“いいね”をお願いします！



13. U-21 学生研究発表会：本年度も開催！（1/2）

32

電気学会

U-21

中学生 高校生
高専生 専門学校生
大学生
学生研究
発表会

電気学会公認！

最優秀賞、優秀賞、奨励賞、佳作 を授与！
総合型選抜入試での「探究」の証明にもどうぞ！

開催日

2027年 2月下旬～3月上旬予定

*昨年度 2026年 2月 28日(土)開催

開催場所

オンライン開催

申込締切

2027年1月上旬予定

*昨年度 2026年1月15日(木)

応募資格

- 21歳以下の中学生、高校生、専門学校生、高専生、大学生。連名者も同様。
(大学生は年齢問わず3年生まで。)
- 個人、連名、どちらでもOKです。部活、サークルなどの課外活動団体の参加も歓迎！

カテゴリー

- ① SDGs（持続可能な開発目標）
- ② エネルギー問題、省エネ
- ③ 電気、物理、材料、化学
- ④ IoT、センサ、Society 5.0
- ⑤ AIやビックデータ
- ⑥ VR、ドローン、ロボット
- ⑦ DX

直接、電気に関係がなくてもOKです！

大歓迎！

- ・製作物の実演
- ・実験や計算の結果
- ・調査報告
- ・授業での成果物
- ・社会への提言
- ・夢や理想を語る！

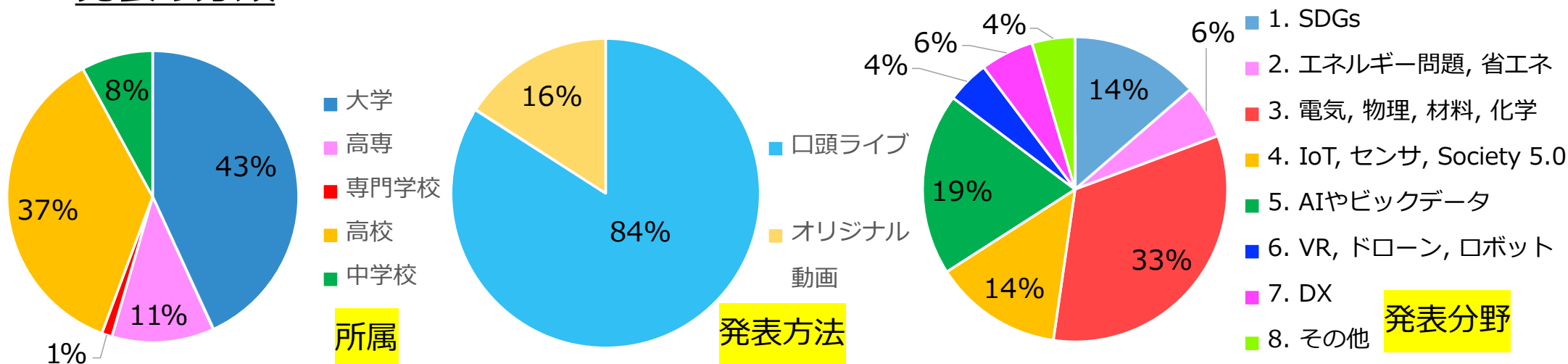
主催：本部 社会連携委員会
U-21学生研究発表会運営WG

13. U-21 学生研究発表会（昨年度実施結果）（2/2）

33

- 2026年 2月 28日（土）オンラインで実施
- 32校 88件の発表（*2025年 30校 83件の発表）**参加校・発表件数 増加！**
- 大学生 43%、高専生・高校生・専門学校生 48%、中学生 8%

発表の分類



延べ200名程度のオンライン参加者（発表者、座長、審査員、聴講者、他）で盛況でした。主催は本部に移行しましたが、B部門の皆様にも、引き続き、ご支援いただけますと幸いです。

B部門は、皆様の活動に支えられています。
今後とも、ご支援・ご協力の程、
よろしくお願いいたします。



ご意見・ご要望は
pes-sp@ieej.org

